

七二番

玉藻刈るたまもか 沖辺は漕がじおきへ しきたへのまくら 枕のあ
たりわす 忘れかねつも

長皇子の御歌ながのみこ みうた

七三番

我妹子をわぎもこ 早み浜風はや はまかせ 大和なるやまと 我松椿われまつつばき 吹かふ
ざるなゆめ

大行天皇、吉野宮に幸す時の歌さきのすめらみこと よしののみや いでま

七四番

み吉野のよしの 山のあらしのやま 寒けくにさむ はたや今夜こよひ
も 我がひとり寝むあ